

3. フランス革命とナポレオン a. 旧制度の矛盾

①18世紀後半のフランス…[1 **ブルボン**]朝絶対主義の矛盾の激化
→この状態を旧制度([2 **アンシャン=レジーム**])という

②旧制度下の諸階級

ア)特権身分…第一身分=[3 **僧侶(聖職者)**] 第2身分[4 **貴族**]
多くの土地を所有、上層貴族は[5 **重要官職**]を独占、[6 **免税**]などの特権をもつ。
→身分内の貧富の差も大きい

イ)第三身分=[7 **平民(非特権)**]身分…[8 **参政**]権もなく無権利状態に放置される(人口の90%)

(1)[9 **商工業者など**](市民=ブルジョワジー)…富をたくわえ実力を向上→実力にあう待遇を要求
・アメリカ独立や[10 **啓蒙**]主義の思潮の影響を受ける

→[11 **政治的発言力**]や[12 **経済の自由**]を要求(=[13 **重商**]主義に反対)

→アベ=シェイエス「[14 **『第三身分とは何か』**」を出版…第三身分の権利を主張

(2)農民=大部分が小作農であり、旧領主の支配をうける(人口の80% 土地の30~40%)
領主への[15 **地代(年貢)**]や重い税を負担、封建的な束縛(領主裁判権・賦役など)も残る

→封建的土地所有の解消、[16 **土地**]の再分割・私有化を要求
「自分が耕している土地を自分のものにしたい。」→[17 **農民反乱**]の激化
なぜ何も動いていない領主に年貢や税を払わねばならないのか?

(3)都市民衆([18 **サンキュロット**]層)=手工業者、労働者、職人など無産市民階級
物価上昇や景気の変動に敏感→[19 **生活の安定**]を要求,都市暴動の中心となる。

b. 立憲君主政の成立

①財政運営の行きづまり←宮廷の浪費、[20 **アメリカ独立**]戦争の戦費など
チュルゴー、ネッケルらの財政改革、[21 **貴族**]の抵抗で挫折
重農主義者
貴族ら「国民の総意による財政改革」のため[22 **三部会**]を開催を要求
(1614[23 **リシュリュー**]による停止以来)

②三部会…議事をめぐり対立、審議進まず
→第三身分代表のみ分離し、[24 **国民**]議会と自称→[25 **球戯場の誓い**]をむすぶ。

26 **憲法制定まで議会を解散しないことを誓い合う**

→国王もいったん承認、第一第二身分も合流([27 **憲法制定**]議会とも称する)

③国王[28 **ルイ16世**]、保守的貴族に動かされ議会弾圧を画策、ネッケルを罷免→パリ民衆の反発

↓
1789年[29 **7月14日**]パリ市民、[30 **バスティーユ**]牢獄を襲撃
→これをきっかけに全国各地で[31 **農民**]がたちあがり貴族領主の館を襲撃

④議会、貴族の提案で[32 **封建的特権の廃止**]を決議(8月4日)

33 **領主裁判権や十分の一税**などを無償で廃止、ただし[34 **貢納(年貢)**]は有償で廃止

⑤8月26日[35 **人権宣言**]を採択(自由主義貴族[36 **ラファイエット**]が起草)
アメリカ独立戦争の英雄

フランス人権宣言(人間及び市民の権利の宣言)…[37 **1789**]年8月26日、フランス革命の中で
[38 **アメリカ独立宣言**]にならって、自由主義貴族[39 **ラファイエット**]が起草し、[40 **国民議会**]が発
布・採択した宣言。すべての人間の[41 **自由・平等**]、[42 **国民主権**]、言論の自由、[43 **所有権
の不可侵**]など[44 **近代市民社会**]の原理を明らかにし、旧体制の崩壊を確認した。

フランスは[45 **ルイ16**]世の時代になり財政危機が深刻化、とくに[46 **アメリカ独立**]戦争への参戦は
財政破たんへとつながっていった。これにたいし、政府は[47 **平民**]身分とくに農民への負担をふやして
きたが、それも限界に達してきた。こうしたなか[48 **1789**]年開催されたのが[49 **三部会**]である。
三部会は当初から議事運営をめぐり対立し、ついに[50 **第三**](平民)身分代表のみが分離して[51 **国
民**]議会を打ち立て、王の迫害に対し[52 **球戯場の誓い**]をむすんだ。しかしこれに反発した保守的貴
族たちは王を動かし議会を弾圧しようとしたため、反発したパリ市民は[53 **7月14日**]、ついに蜂起し弾圧
の象徴と考えられた[54 **バスティーユ**]牢獄を襲った。これをきっかけに全国で[55 **農民**]が反乱を起こ
し、フランスは騒然とした状況となった。こうした中、議会は8月4日[56 **封建的特権の廃止**]をきめ、多くの
封建的特権を廃止したが年貢など封建地代は[57 **有償**]で廃止することを決定したため農民の反発は収
まらなかった。さらに8月26日、議会は[58 **人権**]宣言を決議、旧体制の崩壊を確認した。なお人権宣言
はアメリカ独立宣言をモデルにしているが、新たに加えられた[59 **所有権の不可侵**]などの項目に有産者
たちの立場が示されている。

⑥10月 **パリ民衆**の[60 **ヴェルサイユ行進**]…国王と議会をパリに移し、監督下におく。

⑦以後、1791年までラファイエットや[61 **ミラボー**]など自由主義貴族・上層市民ら[62 **立憲君主**]派(フ
イアン派)による自由主義的改革すすむ。王政廃止は考えない。

⑧自由主義的改革の進行→1791年9月の憲法制定まで
・地方自治体の改革、[63 **ギルド**]廃止など64 **経済の自由**を確立させる
・度量衡の統一([65 **メートル**]法採用の方針決定)

財政危機への対応

・教会財産の没収→[66 **カトリック勢力**]との対立激化
・アシニア紙幣発行→のち深刻な[67 **インフレーション**]の原因に

封建的特権の廃止や人権宣言といった改革は王の権威を損なうものであり、王はこうした改革を認めよ
うとしなかった。こうした王の姿勢に反発したパリ民衆は10月[68 **ヴェルサイユ**]行進を行い、王をパリに
移し、議会も移り、パリ市民の監視下に改革をすすめた。これ以降1791年まで[69 **ミラボー**]や[70 **ラフ
アイエット**]ら自由主義貴族・上層市民を中心とする[71 **立憲君主**]派(フイアン派)を中心として市民層
がもとめる改革がすすめられた。こうした動きの総決算が[72 **1791**]年9月の憲法の制定であった。